

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：山本・永島]
TEL：0853-22-6772
FAX：0853-24-3342

平成25年度 病害虫発生予察情報 技術資料第1号

平成25年4月10日
島根県病害虫防除所

【概況】

平成24年9月、県西部のナシ園（品種：豊水）において、葉の紅葉や枝の皮目の増加・肥大の症状を示す樹が2本確認された（図1～3）。主幹の地際部を切断したところ、内部に腐朽が確認された（図4）。そこで、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所に診断を依頼したところ、*Hypoxyton serpens*によるヒポキシロン幹腐病であることが判明した。

なお、本病は本州、四国、九州の各地で発生している。

- 1 病害虫名 ヒポキシロン幹腐病
2 病原名 *Hypoxyton serpens*
3 作物名 ナシ
4 発生場所 県西部
5 発生生態

1) 病徴

春先の展葉の遅れ、葉に波打ちや小形化、初夏以降に早期紅葉・落葉、また当年枝における皮目の増大・肥大、木部の褐変を、果実では小形化、奇形、果点の拡大・蜜入りを引き起こす。初め枝単位で症状が現れるが、症状が激しくなると他の枝にも症状が現れ、最終的には樹全体が枯死に至る。そのような症状のある主幹の地際部には腐朽がみられる。

2) 伝染経路

除草作業時に形成された付傷部やひこばえの除去時に生じた傷口及び剪定時や高接ぎ更新時の大きな傷口が侵入門戸となる。

3) 宿主植物

*Hypoxyton serpens*は多犯性であり、多くの樹種に材質腐朽を引き起こすと考えられる。ただし、葉や枝での症状発生が知られているのはナシのみである。

6 防除対策

- 1) 枯死した太枝、切株は伝染源となるため園内に放置せずに処分する。
2) 除草作業時には地際部や露出した根に傷を付けないように注意する。
3) ペースト剤で切り口及び傷口のゆ合促進する。

7 萎縮病（類似病害）との見分け方

本病の類似病害に萎縮病（平成24年度 病害虫発生予察情報 特殊報第2号参照）がある。見分け方は下記の表のとおりである。

表1 ヒポキシロン幹腐病と萎縮病の症状による見分け方

	早期紅葉・落葉(図1)	当年枝の木部の褐変(図3)	葉縁の黒変
ヒポキシロン幹腐病	○	○	×
萎縮病	×	×	○

8 その他

疑わしい症状が発生している場合は、病害虫防除所（0853-22-6772）に連絡する。



図1 ナシヒポキシロン幹腐病の発病状況（早期紅葉）



図2 当年枝における皮目の増大・肥大
（上：本病症状、下：健全）



図3 当年枝における木部の褐変
（上：本病症状、下：健全）

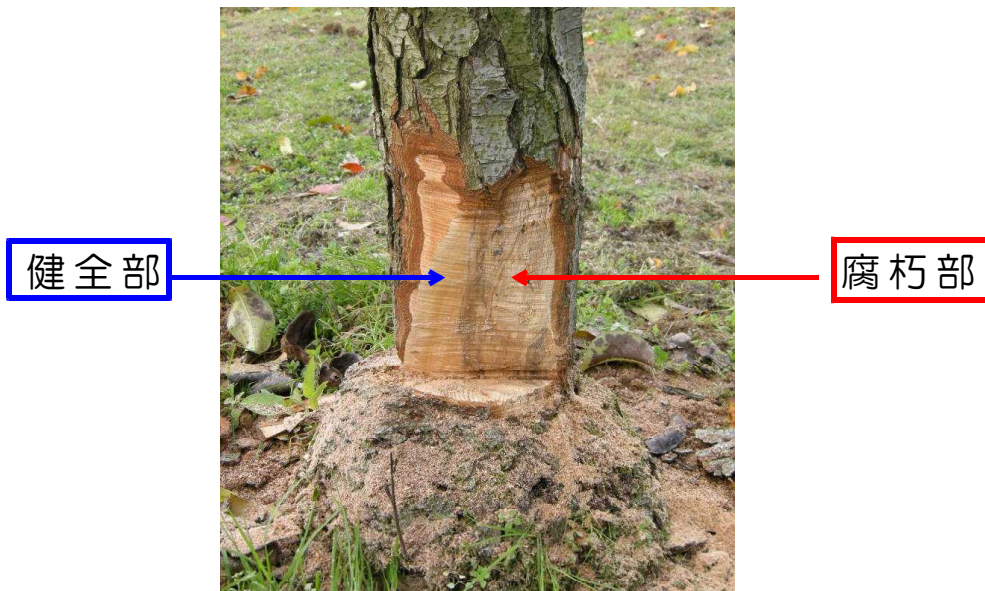


図4 主幹内部の腐朽